

## 3. 国際共同研究

【採択時公表】

## 3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2. に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)  
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

## 〔研究目的及び到達目標〕

言語学の目的の一つは世界の言語が取りうる形式のバリエーションを追求することである。言語は人間の認識・意志伝達の根幹を担うため、上記のバリエーションの解明は、すなわち、人類がもつ認識・意思伝達のあり方を解明することにもつながる。バリエーションの解明には、世界の多様な言語のサンプル、つまり、その言語の実態を実証するための一次データ(音声データやそれを文字化した印刷物など)が欠かせない。そのため本学では主として現地調査により、アジア・アフリカの少数言語・危機言語を中心とした先行研究が少ない言語の一次データ収集とそれに基づく記述的文法研究を行ってきた。このアプローチは、二次資料(文法書など)に基づいて理論構築を行う手法と一線を画しており、個別言語の実状に即した記述を行っているという点で定評がある一方で、次のような問題点を有している。

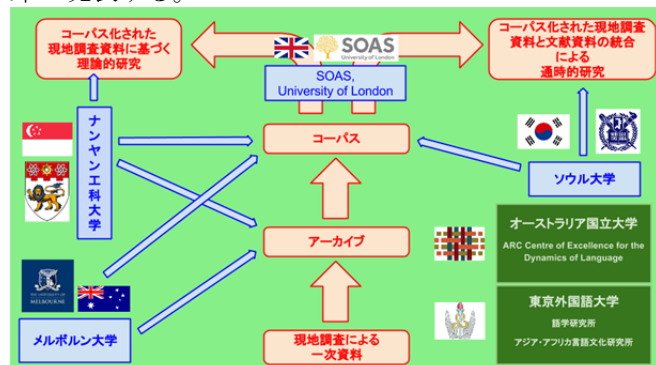
- (1) 収集した一次資料は、それに基づく研究成果を反証可能とするため、また、他の利用者が研究・教育・現地還元を用いることを可能とするため、アーカイブ・公開・共有することが、世界的スタンダードとなっているが、現状では日本の研究機関はデータ共有の国際的ネットワークに組織的には関与していない。
- (2) 一次データの汎用的利用のためには、必要なアノテーション(例: 翻訳、文法情報)を付したコーパスを作成する必要がある。本学では既に21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」(2002-2006年度)などを通して、コーパス構築の試みを行っているが、国際的なスタンダード・企画に沿った形での構築を継続するには至っていない。
- (3) 従来の一次データから積み上げる手法による研究成果は、理論的一般化が不足する傾向があり、同系統の言語の通時的変化に関する研究および、共時的研究の主流の一つである類型論的研究や理論的研究への貢献が必ずしも十分ではない。本研究では、上記の点を解消するため国際的共同研究を実施し、一次データの公開、一次データに基づくコーパスの構築とコーパスに基づく理論的研究、ならびに、一次データに基づく言語の通時的変化に関する研究を行い、将来上記の研究を遂行する研究グループの中核を担う若手研究者を組織的に育成する。

## 〔研究計画・方法〕

本事業では、上記のいずれの内容に関しても世界トップレベルの実績を挙げつつある研究グループであるARC Centre of Excellence for the Dynamics of Language (CoEDL: 主要連携研究者 Nicholas Evans、実施機関: オーストラリア国立大学、メルボルン大学などに措置 [2014-2021])を中心に、ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院(以下、SOAS という。)・ナンヤン工科大学、ソウル大学などの拠点とネットワークを形成し、以下の分野における共同研究を行う。

- (1) データアーカイブ: 日本側研究者が収集してきた少数言語・危機言語の一次データ(音声・映像データ)をCoEDLが運営する現在国際的信頼性が最も高い言語アーカイブ PARADISEK に登録・公開する。
- (2) 言語コーパス構築: 各メンバーが収集した一次データ、および、東京外国語大学において既に構築・公開されている「話しことばコーパス」を基盤に、少数言語・危機言語のコーパスを構築する。また、アジアの公用語(マレー語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ビルマ語)に関して多系統・多文字の言語のコーパス構築を行い、国際的研究の利用に供する。
- (3) 言語の通時的変化・分岐に関する研究: 一次データを基にした通時的研究を連携機関とのアフリカのバントゥー諸語、チベット・ビルマ系言語、満州語の3言語系統ごとに、国際共同研究の形で遂行し、連携研究者・担当研究者・若手研究者による論文を執筆・発表する。

- (4) 言語コーパスを用いた理論的研究:  
 (2)で作成したコーパスに基づいて理論的研究を行うため、適切な情報付与を行う手法を開発する。その結果として得られたデータを利用し、CoEDL(メルボルン大学)においてusage-basedの立場から理論研究を行っているグループと言語類型論・情報構造に関する通言語的な共同研究を推進し、担当研究者・若手研究者と連携研究者による論文を執筆・発表する。



※本ページは増やしません。

(平成28年度公募)